

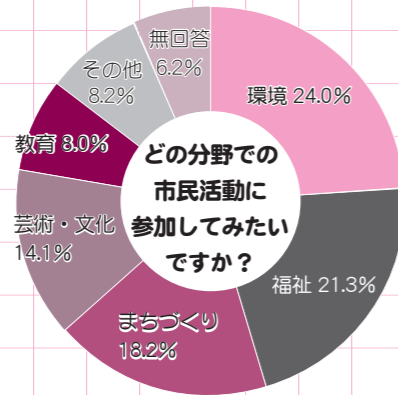
大崎市のまちづくりをどう思いますか？

大崎市のまちづくりをどう思いますか？

Q 市が災害対策として取り組む施策で重要と思うものは？

「食料、物資の調達体制を整える」が最も多く二四・四％、次いで「人家に及ぼす危険箇所の周知を図り、整備する」が二一・五％、「防災無線等による情報共有を図る」が一七・五％の順となっています。

災害対策について



Q 今後どの分野での市民活動に参加してみたいですか？

市民活動の参加分野は「環境分野」が二四・〇％と最も多く、次に「福祉分野」が二一・三％、「まちづくり分野」が一八・二％の順となっています。

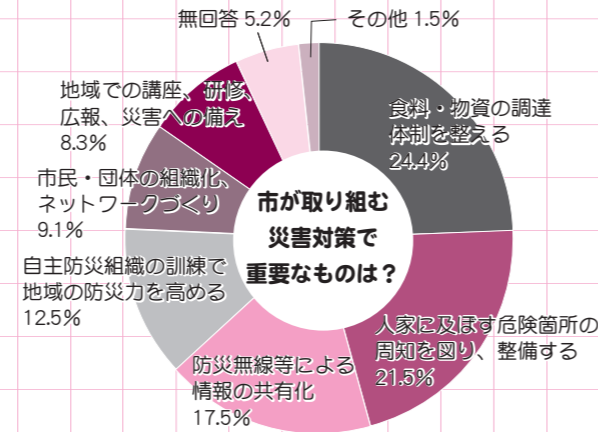
社会参加について

市民活動には「参加したことがない」が四三・四％で最も多く、次いで「過去に参加したことがある」が二七・七％、「現在参加している」が二六・九％の順となっています。

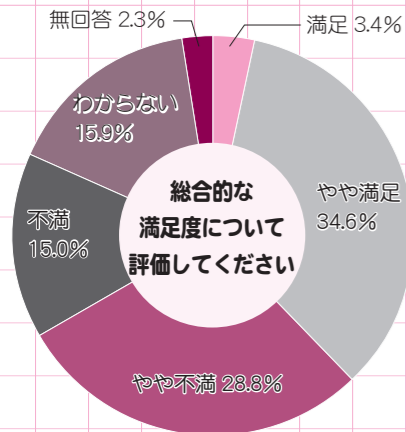
市の事務や事業の見直しを行い経費削減を行う	48.7%
職員の意識改革を徹底する	44.4%
利用の少ない公共施設の廃止や統合を進める	38.3%
市役所の組織をスリム化する	28.5%
滞納整理を積極的に行う等収入確保に努める	25.6%
市の財政に関する情報を市民へ提供する	24.4%
新市建設計画や総合計画の見直しをする	20.5%
住民懇談会など市民の声を聴く機会を増やす	19.1%
事務や施設の管理運営を民間へ委託する	13.6%
その他	4.0%
無回答	32.9%

Q 市の財政が厳しいため財政改革が重要な課題となっていますが、特にどのような改革が重要だと思いますか？

行政改革について



特に重要な行政改革として「市の事務や事業の見直しを行い経費削減を行う」という意見が最も多く四八・七％でした。次いで「職員の意識改革を徹底する」が四四・四％、「利用の少ない公共施設の廃止や統合を進める」が三八・三％の順となっています。（十項目から三つを選択）

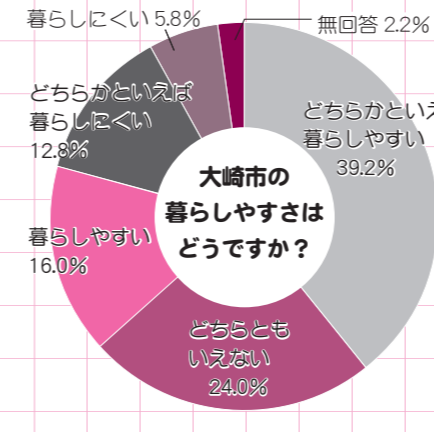


Q 大崎市に対する総合的な満足度について評価してください

「満足」「やや満足」と答えた人三八・〇％に対して、「不満」「やや不満」と答えた人が四三・八％と五ポイント以上上回りました。「暮らしやすさ」では「暮らしやすい」と感じている人が半数を超えているのに比較すると、相反する結果が生まれました。これは、合併によるメリットよりもデメリットのほうが、市民皆さんにマイナスのイメージとしてとられたことなどが要因と考えられます。

総合的な満足度について

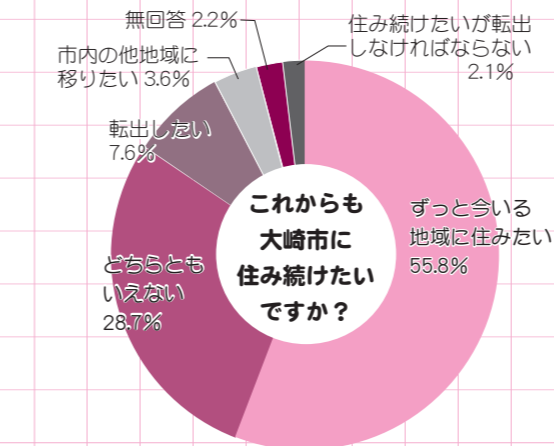
現在地への居住意向の質問では、「ずっと今いる地域に住みたい」と考えている人は五五・八％で最も多く、次いで「どちらともいえない」二八・七％、「転出したい」七・六％の順となっています。



「どちらかといえば暮らしやすい」が三九・二％、次いで「どちらともいえない」が二四・〇％、「暮らしやすい」が一六・〇％の順となっています。「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」をあわせ、暮らしやすさを感じている人が半数を超えています。

Q 大崎市の暮らしやすさはどうですか？

住みやすさについて



「ずっと今いる地域に住みたい」と考えている人は五五・八％で最も多く、次いで「どちらともいえない」二八・七％、「転出したい」七・六％の順となっています。

Q これからも大崎市に住み続けたいですか？

調査の概要

対象	満 15 歳以上の市民 5,000 人
調査期間	平成 20 年 7 月 23 日から 8 月 6 日まで
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
回収結果	調査票配布数 5,000 票の内有効回収数 1,716 票 (有効回収率 34.3%)

回答者の性別

性別	人数	構成比
男性	773 人	45.0%
女性	930 人	54.2%
無回答	13 人	0.8%
合計	1,716 人	100.0%

回答者の年齢

年齢別	人数	構成比
10 歳代	73 人	4.3%
20 歳代	155 人	9.0%
30 歳代	205 人	11.9%
40 歳代	207 人	12.1%
50 歳代	378 人	22.0%
60 歳代	330 人	19.2%
70 歳代以上	348 人	20.3%
無回答	20 人	1.2%
合計	1,716 人	100.0%